

平成 20 年 度 第 7 回 定 例 会

## 八王子市教育委員会会議録

日 時 平成 2 0 年 7 月 9 日 ( 水 ) 午後 2 時  
場 所 八王子市役所 9 階 9 0 5 会議室

# 第7回定例会議事日程

1 日 時 平成20年7月9日(水) 午後2時

2 場 所 八王子市役所 9階 905会議室

## 3 会議に付すべき事件

第1 第10号議案 平成19年度八王子市教育委員会生徒表彰について

第2 第11号議案 八王子市立学校教職員の処置の内申について

## 4 報告事項

- ・平成20年度パワーアップ研修について (指導室)
- ・平成19年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(都)の結果について (指導室)
- ・生涯学習スポーツ部夏季事業について (生涯学習総務課)

---

## 八王子市教育委員会

### 出席委員(5名)

委員長	(1番)	小田原 榮
委員	(2番)	細野 助博
委員	(3番)	川上 剋美
委員	(4番)	水崎 知代
教育長	(5番)	石川 和昭

### 教育委員会事務局

教育長(再掲)	石川 和昭
学校教育部長	石垣 繁雄
学校教育部参事兼指導室長事務取扱 (教職員人事・指導担当)	由井 良昌
教育総務課長	天野 高延

学校教育部主幹 (企画調整担当)	穂坂敏明
施設整備課長	萩生田孝
学事課長	野村みゆき
学校教育部主幹 (中学校給食担当)	小松正照
学校教育部主幹 (学区等調整担当兼 特別支援教育・指導事務担当)	海野千細
指導室統括指導主事	宇都宮聡
指導室前任指導主事	山下久也
生涯学習スポーツ部長	菊谷文男
生涯学習スポーツ部参事 (八王子市図書館長)	坂倉仁
生涯学習総務課長	桑原次夫
スポーツ振興課長	遠藤辰雄
学習支援課長	牧野晴信
文化財課長	渡辺徳康
生涯学習スポーツ部主幹 (スポーツ施設担当)	若林育男
生涯学習スポーツ部主幹 (生涯学習センター図書館長)	遠藤幸保
生涯学習スポーツ部主幹 (こども科学館長)	森文男
生涯学習総務課主査	齋藤和仁

事務局職員出席者

教育総務課主査	後藤浩之
教育総務課副主査	小林なつ子
教育総務課主任	佐藤秀靖

【午後2時02分開会】

小田原委員長 これより平成20年度第7回定例会を開会いたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は 2番 細野助博委員 を指名いたします。よろしくお願ひします。

なお、議事日程中、第10号議案及び第11号議案につきましては、議案の性質上、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項及び第7項の規定により非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 御異議ないものと認めます。

小田原委員長 それでは、それ以外の案件について進行いたします。

まず、指導室から順次報告願ひます。

宇都宮指導室統括指導主事 平成20年度の夏季休業時に行われます、パワーアップ研修について御報告を申し上げます。

金井指導室指導主事 では、今年度のパワーアップ研修について御報告をさせていただきます。

資料をごらんいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

本市のパワーアップ研修は、教員の資質向上等を目的にしまして、平成14年度から実施されております。

宇都宮指導室統括指導主事 当初は、指導室主催で教員の資質向上を図るという方向で行ってまいりましたけれども、平成19年度からは小教研、各学校、それから指導室というような形で、企画提案型の研修会の方へ変容させてまいりました。その中で、平成20年度、今年度は163講座ということになりますけれども、各団体が創意工夫を凝らして研修会を開催するというような形になりました。

具体的に細かな数字を申し上げますと、各学校が企画いたします企画提案型の研修は95講座、小・中学校の教育研究会が企画するものが35、それから研究推進委員会の各班が企画いたしますものが6、それから指導室が企画する教育課題研修というものが17、それから2・3年次研修等、経験年数に応じました研修が10、合計の163講座ということでございます。

昨年度に比べまして11講座ふえているというような、そんな状況で、各学校も意欲的に取り組んでいるのかなというような様子が伺えております。

以上でございます。

小田原委員長 指導室からの報告は終わりました。ただいまの報告につきまして、何か御質疑、御意見はございませんか。

細野委員 とてもいい試みだと思うのですがけれども、研修が終わった後、各单元についてはアンケートとか、そういうのはとっていらっしゃるのですか。

宇都宮指導室統括指導主事 今年度につきましては、共通のアンケートフォーマットをつくりまして、それぞれとって集計をするというような方向で考えております。

小田原委員長 よろしいですか。どうぞ。

水崎委員 昨年の定例会会議録を見せてもらったのですが、昨年は企画した小学校が、70校のうち59校、中学校は38校のうち26校からの企画提案があったということなのですが、受講予定者は6,630人ということで、去年7月25日の定例会で話が出されていると思うのですが、そこら辺、今年度、数字がもし出ていけば教えてもらえますか。

これを足していけばいいのかもしれないのですが、

宇都宮指導室統括指導主事 申しわけありません。そこまでまだ、細かな数字を精査しておりませんので、まだ今、徐々に後追いで募集も来ているような状況がございますので、確実な数字が決まりましたら、改めて御報告いたします。

水崎委員 はい。わかりました。

小田原委員長 これを足すというのは、どれを。

水崎委員 足すとは、数えていけば出るのかもしれない。

小田原委員長 人数なんか。

水崎委員 人数は出ない。学校数はね。

小田原委員長 学校数はわかっているのではないの。講座がわかっているのだから。

川上委員 95。だけど、小学校と中学校のあれは・・・。

金井指導室指導主事 学校数につきましては、小学校が全部で71講座を設定しています。ただ、この学校数だけで見ますと、複数の学校で合同企画を立てている場合もありますし、小・中学校で小・中一貫をねらいとしたところの研修を企画しているところもありますので、一概に何校ということまでは、申しわけありません、今のところは把握できており

ません。

小田原委員長　　今の話は、ちょっとそがあって、小学校だけで、そういうのがあるというか、小学校だけで重なっている部分、何校かで共同開催というのは数少ないのですよ。

小・中で一緒にやるというのはありますけれど、小学校同士でやるというのは、数はうんと少ないです。中学だけで幾つかまとまってやるというの、うんと少ないですよ。

ただ、同じ学校で別な算数と国語をそれぞれやるというような、そういうダブルカウントがあるので、学校数としてはもっと数は少なくなるだろうと。

そのほか、どうですか。どうぞ。

水崎委員　　昨年のこの定例会のときに、ある委員さんがこういうことをおっしゃっていたのですね。小教研、中教研の理科部がサイエンスドームで授業をやって、それが研修として認められればいいのではと。パワーアップ研修の中に取り入れられれば、自分たちの実力アップのための授業をやって、それがパワーアップ研修として認められればいいのではないのでしょうかという御提案の話があったと思うのですね。

そのときの統括の御返事だと、サイエンスドームでしかできないような内容を企画して、サイエンスドームを使って先生方の事例研修や授業改革のための研修をするのは可能ですよ。そういう提案があれば認めることは可能ですよというお話があったときに、いいプランだと思うので、来年、そういうやり方もあるというアドバイスをしていただければどうでしょうかというお話が出ていたのですね。

それは、個人的なお考えもあったのだとは思いますが、今年度それについては何かアドバイスとかがあったりとか、先生からのいい反応があったりとかは、どうなのでしょう。

宇都宮指導室統括指導主事　　教員の方からは、提案は特にはございませんでした。ですので、ここに載せている中身になろうかなというふうに思いますが、そういうのを企画する教員が、夏季休業日中には、子ども科学教室の方で、結構活躍をしている教員の先生方が多くて、なかなか重複してというのは難しいのかなと。うまく割り振ればできるのだと思いますけれども、そういった意味で、これから理数教育の方が重視されてまいりますので、特に組んでいきたいなというふうには思っておりますので、今後、御期待いただければと思います。

水崎委員　　これも、先生からの企画提案になるので、こちらからやりなさいというものはないと思うのですよ。ただ、こういう方法もありますよという、そういう何か御提案と

いのですか、そういうような少し幅を広げるといような提案、アドバイスをすると  
うのも、またひとつ少し広がる秘訣かなという気もするのです。それがいいとか悪いとか  
というのは、またそれは先生方の御判断での提案になってくると思うのですが。ただ道を  
開くという意味でのアドバイスというのは、いろいろな形でやっていくのはいいのかな  
なんて思ったりもしたのですけれど。

宇都宮指導室統括指導主事 それは、もう私も専門は理科ですので、工学院で研究会があ  
ったときに、前もって話はしておきました。ただ、今申し上げたとおり、やはり科学教室  
もあるしねというようなことで、今回上がってこなかったのかなというふうには考えてい  
ます。

水崎委員 理科に限らず、ほかのでもそんなことは考えられるのかなと思うので、やはり  
いろいろな角度の研修というのは、私、必要かなと思います。もちろん、今の理科は一例  
だと思いますので、いろいろな意味で視野を広げた研修というのも、私は今後大事になっ  
ていくのかななんて思ったりもしたもので、よろしくをお願いします。

小田原委員長 これ、もらっているのですよ。サイエンスドームの、子どもたちに対する  
のは、あるのです。私たち、今日、もらっているのですよ。生涯学習の方からね、夏休み  
イベント特集、子どもたちを集めると。ここにはかかわっている人たちもいるわけでしょ  
う、先生方で。それはいないのですか。

森生涯学習スポーツ部主幹 その学校とのかかわりについては、今ございません。

それで昨年、こども科学館の方に先生の夏休みということでありましたが、今も指導室  
の方から御説明があったと思うのですけれど、なかなか先生もお忙しいということと、ほ  
かのものとの連携があったり、それで、科学館というのは難しいということがあります。

ですので、やはり科学館とすれば、自前で何か講座をしながら、今度は逆に科学館から  
発信していくという方法をとらざるを得ないなということで、今回からちょっといろいろ  
と、ひとつ今後考えていきたいとは思っています。

水崎委員 ありがとうございます。

小田原委員長 さっきの水崎委員の発言の中で、研修はこちらからあれをやれ、これをや  
れという筋合いのものではないということがありましたけれども。

水崎委員 全部がという意味ではなくて、企画・提案という形になると、やっぱり先生方  
からの発信というのも大事なのかなとも思ったのですね。

小田原委員長 それは、そういう言い方ならいいと思います。

研修は、こっちから与える命令研修も当然あるわけですからね。

水崎委員 そうですね。いろいろと、指導室からもあると思いますし、それはわかっています。

小田原委員長 そのほか、いかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 特にないようでございますので、よろしくお願いいたします。

小田原委員長 次に、平成19年度「児童・生徒の学力向上」。

宇都宮指導室統括指導主事 続きまして、平成19年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」、東京都のものでございますけれども、結果について御報告を申し上げます。

小林指導室指導主事 平成19年度、東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果の概要について、御報告いたします。

資料をごらんください。

本調査の目的は、児童・生徒一人一人に確かな学力の定着と伸長を図るとともに、各教科の目標や内容の実現状況を把握し、指導方法の改善・充実に生かすことです。

次に、調査の対象学年についてです。平成18年度まで実施していた「確かな学力の定着を図るための調査」、基礎的・基本的な事項に関する調査の対象学年、教科数が変更になりました。基礎的・基本的な事項に関する調査の対象学年は、小学校第四学年、中学校第一学年の抽出校となりました。教科は、小学校が国語科と算数科、中学校は国語科と算数科・数学科となりました。

小学校第二学年と中学校第二学年の調査内容は、確かな学力の伸長を図るための調査、問題解決能力等に関する調査、及び学習に関する意識調査となりました。問題解決能力等に関する調査の結果については、小学校の平均正答率が東京都全体の平均より2.9ポイント、中学校の平均正答率が東京都全体の平均より0.7ポイント、それぞれ下回っています。特に小学校については、東京都が示す評価の各観点において、都全体の平均より下回っており、中学校については表現する力が1.2ポイント、適応・応用する力が0.9ポイント、東京都全体の平均より下回っております。

指導室では、問題解決能力等の伸長に向けて、基礎的・基本的内容の定着を図ることが、より一層重要であるととらえています。今後、本庁との結果を分析し、全国学力学習状況調査の結果と照らし合わせることで、基礎的・基本的な内容の定着状況を把握し、各学校

における授業の改善や、学力向上のための施策の充実に役立てていきます。

主な取り組みとしては、授業改善推進プランによる授業改善の一層の推進、八王子市学力定着度調査の見直し、小・中一貫教育指導資料の作成及び活用です。

授業改善推進プランによる授業改善の一層の推進については、各学校で本調査の結果を生かして、基礎的・基本的な内容の定着を図るために、平成20年度授業改善推進プランを作成し、その実施、評価、改善のサイクルを通じた授業改善を一層推進していきます。

八王子市学力定着度調査の見直しにつきましては、平成20年度以降、小学校第四学年、第五学年で実施することで、基礎的・基本的な内容の定着状況を経年変化で把握していきます。それによって、各学校の取り組みの効果を検証し、成果を上げた学校の工夫を明らかにしていきます。

小・中一貫教育指導資料の作成及び活用については、小・中一貫教育指導資料作成委員会、知育の分野で基礎的・基本的な内容の定着とともに、思考力・判断力・表現力等の伸長を図るための指導資料を、今年末までに作成しまして、小・中学校全校での活用を図ります。

以上でございます。

小田原委員長　ただいまの、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について、御質疑、御意見、ありましたらどうぞ。

細野委員　八王子はご承知のように、非常に広いですよね。いつも、その問題になっているのは、地域ごとの特性がどうのこうのという話があるので、八王子一つではなくて各ブロックがございますでしょう。ブロックごとに、もしできたら数字が欲しいのですよ、個々の学校でなくてもいいから。

それともう一つは、ピンとキリというのが、公教育にとってはとても大事な話なのね。ピンとキリをどうやって縮小するかと。そうすると、分散がどれくらいかということも、ちゃんと出してほしい。そうじゃないと、問題が浮き彫りになってきませんから。平均だけではだめなんですよ。

それは意見です。

小田原委員長　毎回指摘されていることなのだけれど、そういう資料というのは出せないのですか。

つまり、細野委員が指摘しているのは、これは東京都のものなのだけれども、全国の場合、それから八王子市独自のものを含めて、4ブロックでやっていたら、6つでし

たっけ。

宇都宮指導室統括指導主事 小学校が7で中学校は4です。

小田原委員長 もっと大きいくりでやっていたような気がするのだけれども。その動向というのは、例えば東西南北で言えば、東がこのくらいで西がこのくらいだというものの一つ。

それから、もう一つはピンとキリの話で、ピンというのはどっちなのかよくわかりませんが、分布がどうなっているのかと、そのの広がりがあるのか固まっているのか、山が二つあるのか、そういうところの分析が必要なのではないかということは毎回言われているのですよ、こういう調査が出るたびに。そういうのが言われないと出てこないのかなということなのだよ。そういうのは、皆さんは新しい、4月に来た方だから、そういう話は引き継ぎされていないのかしら、どうなのかと。ありませんか、そういう話は。なければいけないということで、今回、仕方ないということになりますけれど。

宇都宮指導室統括指導主事 引き継いではおりませんでした。ですが、今回御報告させていただいた後に、先週の金曜日でしたので、この後、クロス集計しながらデータ分析をするということは資料を出しておりますので、また改めて御報告できると思います。そこら辺から推測することと、また12月に市の学力調査の方も行いますので、そこら辺との関連等も考えていくための基礎データをつくっていきたいなと思っておりますので、また御報告させていただきます。

小田原委員長 そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

水崎委員 すごく今のことは大事なと思うのですね。毎年この場で同じことを言うというのは、非常に進歩がないなという気がしちゃうのですね。私は、この場に出るときに、できるだけ前年度の定例会会議録を見ながら、こういう話をしてきたのだなと。そして、別にそれを比較して文句を言おうとか、そんなつもりはないのですが、学力というのはそんなに顕著に成果が見えるものではないという気はしているのです。でも、やはりその中で少しずつでも固めながら、経年の変化を見るということも大事なという気はしています。

それで、学力調査の結果が出ると、こういう取り組みを今後していきますというのが、ホームページなんかでも出ていますよね。そういう取り組みをしていて今はどうなのですよ。もちろん、取り組みした結果すぐ出るなんてことは、私も期待はしていないのです

けれども、学力調査の結果を受けて、こういう取り組みを考えていますと。たしか学力向上検討委員会というの、去年できているのではないのでしょうか。そういうのをやった結果、どういふようないい方向に向いているのかとか、そういうようなことも少し教えていただきたいなという気がしました。

あともう一つ、各学校において、やはりその学校の子どもの状況というのはわかっていると思うのですね。成績の悪い子は、なかなか向上しない。それについて、各学校でどういふ取り組みをすればそういう成績、学力のばらつきも減るのだろうか。それで、もちろん、できる子にはできる子の対策、もっと伸びる方法もとらなくてはいけない。でも、学力のすぐれない子どもたちについて、どういふ方法をとるのが、この子どもたちにとって少しでも伸びていくのかな、学力が向上していくのかなと、それを各学校で恐らくやっていたいていると思うのですけれども、それについての支援をどうすれば、さらに学校としてもいい形にもっともってなっていけるのか、子どもに対しても、もっともって学力が伸びるのか、そこら辺も私は大事ななという気はするのですけれども。

よろしくをお願いします。

宇都宮指導室統括指導主事　ただいまの件につきましては、各学校がそれぞれの、今回は問題解決能力だけですので、抽出校については国語と算数・数学がございましたけれども、各学校にはデータを渡しているところです。その中で、各学校が授業を改善する新プランと先ほど申し上げましたけれども、その中でどのように改善を図っていくのかということは、個々、学校によって異なりますので、地域によっても異なりますので、そこをまず基礎として、市教委は市教委として、どのような方向でアシストをしていかれるのかということを考えていく必要があるのかなというふうに考えています。

学力調査のデータも加味しながら、アシスタントティーチャーというものを配置している授業がございます。これもひとつ学校を支援していく中身というふうに考えております。

それから、学力向上検討委員会の方ですけれども、これにつきましては市で行う学力調査の方のデータ分析ですとか、それからどういふふうに生かしていったらいいのかという報告書を作成する方の委員会として、各学校に資料提供をしていくというような、そういった委員会がございます。ですので、施策を検討するというよりは、学力分析をしてどのような指導方法、指導体制の改善を図っていったらいいのかという提案をするというような、そういったものになっております。

由井学校教育部参事　まず、学力向上検討委員会は、今のような話ですけれども、小学校

の算数、それから小学校の国語、それに関する学力が高まるのはどういうふうですと、その開発を昨年度続けていました。今年度については、(3)にあります小・中一貫教育指導資料ということで、内容的に基礎・基本プラス問題解決的な学習、そういうものを含んだものとしてより発展的につくっていきましょうということをスタートとして、今つくっているところです。それが教材関係のお話です。

それから、もう一つは、学力調査の受けとめといったらいいのでしょうか、分析、そのものが、各学校でまだまだ甘い状況が昨年ありました。なものですから、専門の分析官を呼んで、ここでも指導、山口分析官が発表したと思いますけれども、これは校長会の方で発表していくと。校長会に報告させまして、学校でも分析をもう少しきちんとやっていくということと、それから授業改善推進プランも、その分析に基づいてやりましょうということをお話をして回収し、指導主事がその後指導に行っていると。特に、学力面で課題のある学校、それから顕著な効果があったと思われる学校ということ、学校に行って取材したりとか、指導をしているところです。

ただ、学年が違うから、集団が違うから、本当に効果があったのかというのはわかりにくい部分は確かにありました。そういうことがありましたので、今年度については小学校は4年・5年という学力調査を経年で実施して、では何か効果があったのかと、より検証できる、それをつかめるような、そういう学力調査にしていこうと、市の学力調査に対し、そういう対応を図っていくということです。

以上でございます。

小田原委員長　私の進行の仕方もちょっとまずかったのだけれども、これは東京都の調査ということですね。東京都の抽出だから、今の室長のお話しした全校悉皆の市の調査とは違うのだということですね。それとごっちゃになっちゃっているということがありますね。

今回は、そのうちの学力向上を図るための調査と言っているけれども、それと今、統括のお話は問題解決能力の結果だという話なのだけれど、これは同じなのですよね。

宇都宮指導室統括指導主事　はい。同じです。

小田原委員長　同じもので、これ以外の都の調査の結果の報告があるわけではないのですよね。

宇都宮指導室統括指導主事　国語と算数・数学の抽出校についてのデータについては、まだその辺の相関関係を分析しておりませんので。

小田原委員長　　また別途出てくるわけですか。

宇都宮指導室統括指導主事　　はい。別途出させていただきます。

小田原委員長　　その7校と11校については、個々に出るわけですか。まとまってか、個々には出ないわけか。個々にというと、公表することになりますから。

宇都宮指導室統括指導主事　　あくまで抽出校でございますので、そういった形で八王子市の傾向としてということで、分析結果を出したいと思っております。

小田原委員長　　そうですか。

細野委員　　ちょっとお聞きしたいのだけれども、この悉皆の調査が二つありますでしょう。第二学年と中学校、それから第五学年、小学校ね。

小田原委員長　　これは、抽出の各区市町村の結果ということで。

石川教育長　　こっちの方の資料ですよ。

細野委員　　じゃあ、話しましょう。確かな学力で、問題解決能力に関する調査とあって、これに「全員」とあるでしょう。

小田原委員長　　どこ。

細野委員　　これです。これは皆さんにも行っているわけね。

小学校5年生、問題解決能力等の平均というのが、都全体から見て八王子って低くなっていますよね。これはいいですよ。

八王子市全域じゃなくて、幾つかのブロックに分けるということがまずあって、もしもその地域にほとんどが東京都の平均より低いとすれば、恐らく教育投資をする親御さんは、八王子を居住地として選ばないかもしれませんよね。ということは、とても大事な話なのだけれども、若い世代が八王子を選択してくれないというおそれがあるわけですよ。とすると、とてもこれは早く解決しなければいけないというふうに思います。

じゃあ、そういうときに、その中でも八王子では突出していい学校もあるかもしれない、恐らく。そうしたら、そういう学校のケーススタディというやつが、このパワーアップ研修の中に取り入れようとしているのかどうなのか。その話をちょっとお聞きしたい。

小田原委員長　　どうぞ。

宇都宮指導室統括指導主事　　今、御指摘いただいたような視点での研修会を指導室の方で考えるということは、しておりませんでした。学校の方も、恐らく目の前のことで対応しているので、そこら辺までの広い視野での研修会というのは、企画がないのかなというふうに思います。

細野委員 先ほど、委員長がいいことをおっしゃったけれども、教育委員会の方でこういうこともやっぱりやってほしいというものに、僕は一つとしてそれをやってほしい。

だから、この調査があったのだから、せっかくだからそれで都の平均よりもいいとか、それから八王子の中で突出しているところがあったら、そこはどうやってやっているのかという、こういうケースメソッドで、皆さんを集めてぜひやってほしいと。

それは私の要望です。

小田原委員長 それは、各学校で学力向上について、こういうふうな対策をとっています、とりますというのは、これは公表しているのですよね。

宇都宮指導室統括指導主事 はい。公表しています。

小田原委員長 公表しているのですよね、各学校が。

それについて、我々は学力のあるないが、どのくらい考慮しているかわかりませんが、支援をするというふうにして、何らかの手当をしてきているはずなのですよ、はずね。

それがどうなったかというのが、これは実はオープンにされていない、実はね。それをオープンにしてほしい。私はそれをお願いしているわけ。ということは、全部公表しろということなのだけど、これこれこういう結果について、こういうような対策を立てているものについては、こういう手だてを講じました。ついては、その結果がこうなりました、というのを見せてほしいわけ。ところが、なかなか見られないのですよ、私たちも。それができるようなことというのは、考えられないか。今すぐは無理にしてもね。

細野委員 だから、やるべきことは二つあるのですよ。

突出した成果を上げた学校について紹介してほしいし、どうしてそういうことができたのかということ、皆さんに御披露申し上げるといのがまず一つ。

今、委員長がおっしゃったように、少し成果が低かったところに、我々は加配をしたはずですよ、ボランティアとかそういうもので。その結果がどうだったかということの検証がほしい。

小田原委員長 それで、さっき水崎さんが、学力向上の成果はなかなかすぐには出ないというふうに言われたけれども、私はすぐに出なければいけないものだと思っているのです。でなかったら、卒業したら何の意味もないわけですよ。

そういうのが生かされていくかどうかというのは、教育は100年の計だという話に行っちゃうのだけれども、1年間かけて何も力がつかなかったなんていったら、それは何も

しなかったということですから、そんなのはやらなくていいような話ですから。

やっぱり、成果は出なきゃいけないんです。すぐに出なきゃいけないんです。出るはずのものなんです。この程度のことですよ。

水崎委員　もちろん、小田原先生のおっしゃるのはそうかもしれないですけど、ただ、子どもによってはずっと勉強ができなくてきた子というのは、なかなか改善に時間がかかる。それも現実あるのではないかなという気はしています。

小田原委員長　それは、僕はいつもこの席でも言っているのですが、この教育委員5人の平均点が80点だったというのはいろいろあるのですよ。平均点80点というのは。

水崎委員　5人。

小田原委員長　5人の平均点が80点だというときに、私が0点で皆さんが100点だったら、80点なのです。それから、私たちみんなが80点だったというので80点というのがあるのです。どうなのがいいか。現実というのはどうなのかというと、私が0点というのが、これが普通なのです。普通というか、そういうことが起こり得るわけです。

皆さんが100点、その他が100点をとる、これが望ましいことだと私は思っているのです。私が幾ら勉強したって0点からいかないというのは、これは皆さんが見ればわかるわけで。ただ、とりあえず、勉強しなかった0点だったら上がるかもしれないけれど、私は勉強してもだめだという話って、これはあり得る話なのです。多分、そこを言っていると思うのですよ。

水崎委員　すみません、ちょっとよくわからないのですけれど。ただ、私は、自分の一市民という立場だと、勉強ができない子を少しでも上げてあげる、それを今学校もやってくれているわけですね。それについて市教委として、今までもやってきたと言ってくれたのですけれども、今後も支援ができるところは極力支援をして、その子たちの学力が向上すれば、もちろん八王子の学力も向上して、皆さん喜ばれると思うので、それをお願いしたいなという発言しただけなのです。

小田原委員長　ただ、それは当たり前なことなのです。

水崎委員　じゃあ、当たり前のことをやって。

小田原委員長　ところが、当たり前のことをやっていないのですよ。

水崎委員　だれがですか。

小田原委員長　学校の現場で、やっていないところもあるのですよ。

例えば、習熟度別の授業をやっているわけですよね。習熟度別授業をやっているのだけれども、その上のクラスと下のクラス、下のクラスは人数を少なくしているのですよ。なのに、同じことをやらせているというのは、学校へ行ってみるとあるわけです。

それではだめだということを言っているわけです。そういうところを明らかにしていかなかったら、全体のレベルアップということは、図られていかないと。

細野委員 恐らく、僕はよく知らないけれども、みんな、教育の発達教育というのはあるのですよ。ただ、線形ではない。順繰りに行くのではなく、ある日、ぱっと出てくるという、目からうろこが落ちるとい形でぐっと上がったりますわけですよ。そのきっかけみたいなものは、私は当然、教育でできると思いますよ。そういう個人個人のものではなくて、先生の教え方とか、そのきっかけの与え方とか、意欲のつき方によって全然違うと思う。

本当にある日、変わるのですよ。教育現場を見ていて、そう思う。それがやっぱり、教師の皆さんの努力もあるし、いろいろなこともあるかもしれないけれどもね。そのところ、どこで天井をうつかと、それは個人個人によって違いますよ。でも、順繰りに、こうじゃないと思う。ぐっと、こう上がる。そういう経験を積ませると、みんなもう勉強するのですよ。というふうに僕は思うのだけれども、いかがでございましょうか。

水崎委員 もちろん、それはあると思います。個人、人それぞれだと思います。

私、これ以上、言うつもりはないのですけれど、やっぱり各学校、いろいろな事情を抱えている中でやっている、もちろん、やっていない学校もあるかもしれない。私、全部きちんと正しく見ているわけではないので、そういうことを私は言う資格もないですけども、ただ、余り順位とか平均点とか、それがひとり歩きしないように、やっていく必要があるのだなという気がしたので、成績のできない子についてもお願いしたいというか、力を入れていかななくてはいけないと思っているということを、ちょっとお伝えしたかっただけなのです。

細野委員 いきなり順番が変わる場合もあるのですよ。そういう人たちをいかに多く、上の方に上げてあげるかと。それが一つの教育だと思いますよね。

水崎委員 何かのきっかけというのは、細野先生がおっしゃるように感じることはありますね。やっぱり、自信を持たせるということは大きいと思いますよね。その自信をつくるきっかけづくりも、もちろん学校の先生だと思うので、学校の責任は重大だと思いますけれども。

細野委員　それで恐らく、その上位の学校というのは、どの科目についても上位のはずな  
んですよ。

水崎委員　その学校。

細野委員　どの科目についても上位なはずなんですよ。そういう学校は、どういう形で教  
育しているのだろうか。そのあたりの話を、パワーアップ研修でぜひぜひしてほしいと。

水崎委員　あと、学力には、またこういうことを言うと怒られちゃうかもしれませんが  
ども、家庭の状況というのもすごく大きいと思うのですね。だから、一概にこれが原因と  
いうものはないと思うので、いろいろなものが重なって今があるということもあると思  
いますので。

細野委員　だから、恐らく家庭の方でそういう力がなくなったら、学校でそれを引き受け  
てやらなきゃいけない。

小田原委員長　僕は、よくその水崎委員の話はわからないのですよ。家庭の事情って何を  
言うのか、もうちょっとちゃんと言ってくれないとわからない。

その家庭の事情で、学力云々に差がつくということは、僕はあり得ないと思っているの  
ですよ。

水崎委員　まあ、あり得てほしくはないですけど、現実はあると思います。

小田原委員長　それは、現実で何なのかというのは、いずれ、報告をいただきたいと思  
いますけれども。

水崎委員　そうですね。きょうはちょっと話が違うので。

小田原委員長　成績がひとり歩きするというけれど、それもよくわからないの。順位がひ  
とり歩きするというのはどういうことなのですか。順位がひとり歩きするなんてことは、  
あり得ないですよ。

ひとり歩かせているだれかがいるのかもしれない。順位がひとり歩きするなんて、あり  
得ないじゃないですか。

だから、そういう話はもう終わり。もっと別の機会にやらなきゃいけないと思いますけ  
れども。

水崎委員　そうですね。やっぱり、考え方とか、自分の置かれている立場の相違というの  
はあるのかなと。私はやっぱり庶民なので、庶民の感覚というね。

私は、市民公募の素人が入ってきている世界なので。ただ、私の現実というのですかね、  
そこから見えてくる世界、そこで私は語るのですね。だから、それが皆さんにとったらピ

ンとこないこともあるかもしれないけれども、そういうこともあるのだよということに耳をかしていただければ、私ありがたいなと。それだけなのです。

それで、別に、水崎が言っていることは正しいとか間違っているとか、そういうことを言ってもらうために意見をやるのではなくて、現実にはそういうことだってあるのですよと、そう思っているのが一人でもいるのですよということを知っていただくだけでいいのかなと思って発言しているだけなのです。

小田原委員長 はい。そのほか、どうですか。

川上委員 今、お話のことはよくわかるんです。それで、みんなそれぞれ見るところは100%見られませんので、世の中のことすべてをね。それで、ああ、そうか、そういうこともあるのだなということわかりますので、おっしゃっている意味はよくわかります。

ただ、私は教育の現場にいたと。それも小学生ではありませんので、ただ、小さなお子さんの指導も、長いことしたこともございますので、ちょっとその経験から申し上げれば、私はもともと信じているところがあって、これはちょっと本線から違ってきてしまうかもしれないけれど。

人間の持っている能力って100%だと思って、みんな同じに持っているというふうに思うのですけれども、その出方が違う、出し方が違うというところかな。やっぱり、指導者というものは非常に大きなあれを占めるのですよね。ですから、このパワーアップ研修というものを、本当は私、非常に、私も毎年これを言っているかもしれませんが、その内容、それから方法、去年はパワーアップ研修の1講座は聞かせていただきました。朝から晩までだったかわかりません。ここを見ますと、午前と午後出れば、それで研修が終わりだ判がもらえるのだというようなことも、先生方には、そういうものがあるようだけれども、それでパワーアップできたかどうかというところの、それこそその検証が必要かなと。

それから、今、この全部の講座を見ても、これを本当にやって、それが学校の教育の場に生かされるのであれば、それはすばらしいことだというふうに思うのですね。パワーアップ研修を受けなければいけない。何科目とか何教科とか受けなければいけないか、その受けたことがまたどう評価されるとかと、そういうような状況でやっているうちには、教員のパワーアップにはならないというふうに思うのです。

それから、ちょっとしたいろいろな児童・生徒に対する、個々に対する対応力というのですか、そういう力というものが、要するに教員の、方法もそうですけれど、人間力を高

めるようなパワーアップ研修というものは、どこかできちんとあってほしいなど、これは毎年多分言っていると思いますので、水崎委員のように、去年のことがまたここで出てきてしまいましたという感じがします。

ほんのちょっと今の講座数のあり方と、講座の名前を全部見ますと、ちょっとそんなような気がしますので、もう少し大きなところで、それをした方がいいのではないかなというふうに思っています。

細野委員　もしも学力の高いところの人たちの経験を話してもらうときに、これだけはやってほしくないのは、あそこは地域的に特殊だから、あそこの先生は恵まれているから、そういうような対応をしてほしくないのですよ。そうではなくて、どこでもそれはできるのだというためには、どういう工夫の仕方をする、どういうプレゼンテーションをしてほしいかと、そのトップの中学校とか小学校の先生方にくれぐれもそれをよろしくお願ひしたいですね。

私たちは特殊ではないですよ、特別ではないです、恵まれた地域なのですよというのではなくて、どういうところだったら一般的に皆さんのところでも、ほかのところでもこれが使えるのかと、そういう観点から、ぜひ研修で使ってほしいと思います。

ぜひ、僕は、パワーアップ研修の中にこれを入れてほしい。

小田原委員長　細野さんが言っているのは、教科1つだけではないということなのですよ。学校が、英語だけではない5教科なら5教科、3教科なら3教科、全部やっぱり上の方に来ているという、その現実があるとすれば、それは個々の教員一人の努力だけでもない、方法だけでもないのだということですよね。そういうものを、見せてほしいということなんですよ。

実際にそういうのはあるだろうと思いますので。

石川教育長　まとまらない中で話をするのですけれども。人間の成長を発達させるというのは二つあって、一つは遺伝だし、もう一つは環境なわけですよ。ですから、我々はその環境をできるだけいい方向に条件設定をしてやるかということに、特に教育委員会の存在意義があるということです。

さっき、細野委員が、顕著な成果を出しているところを挙げてみると。そこは何をやっているのだという、そことの関連なのですから、やっぱりこれ、遺伝と環境の問題があって、要するに地域とか学校差があるから、スタートラインが一緒ではないのですよ。そういうのを見ても、私は余り意味がないと思っているのですよ。

それよりやっぱり、その経年変化とか学年進行にしたがって、どのくらい伸び率があったかとか、そういうことをやっぱり見ていかない限りは、余り意味がないので、これは総合的にやらなきゃいけないと思いますね。

今、その学力の話をしているから、学力の争点があったっていいのですけれども、でも、その学力を高める上では、さっき、飛躍的に伸びる時期があるのだと。それは一つに、私の経験から、ある教員との出会いとか、ある本との出会いとか、ある事象との出会いとかいろいろなことで激変に伸びる時期というのはあるのですよね。

そういう意味では、やっぱり指導している側が承知をした上で、子どもたちに接していかなくちゃいけないのだろうと思うのですよ。ですから、特に長期休業中のこういうパワーアップ研修などというのは、学力に特化することだけではなくて、もう少し広く実験を取り入れてみるとか、あるいは人間力を高めるような何らかの講座を設けるとか、そういう総合的なことをやって、教員の全体の力、まさにその人間力を高めるようなことの方が、私は、子どもたちの学力を引き出す上では大事なことかなと思うんですね。

そういう点で、現場は今、学力、学力って、もう学力ばかり言われているから、結果としてこういうふうになっちゃっているけれども、やはり、我々とすればもっと人間的な心の問題の成長にも焦点を当てて研修をしてほしいというようなことは、言っていかなくてはいけないのかなというふうに思いますけれども。

細野委員　確かにそうなのだけれど、二つ目の点、少し考えてほしいのですけれども、経年的な変化って、この同じ試験をやって、同じ学年が次に上がったときにどうなっているかとか、そういう同質のデータの変化を見るというのだったらできるけれども、断続的だったら、それは見られないわけです。そこをどうするかというのはひとつお考えいただきたい。

教育長がおっしゃることは、私は賛成なのです。どういう変化で顕著に伸びたかというやつを、データが本当に同じ同質の集団をとらえてどう変化したかというのがわかるのだったらそれがいい。それができなかった場合には、どうするかということを考えないと。

それから、もちろん人間力は大事なけれども、いろいろデータを見ていると、人に対する受容力とか寛容力というものと学校の成績って、かなり関連しているのですよ。それは山口くんが分析してくれた中にもあったと思うのですけれども。そうすると、いろいろな精神的な悩みとかいろいろなものも、やっぱり成績の方に反映してくるだろうと。それが個人の問題なのか、それとも教室の中の問題なのか、家庭の問題なのか、いろいろ複

雑な部門。だから、そういう点では、いろいろなこういうカウンセリングの講座とか、そういう総合的なものが必要なのですよ。

そのときに、はい、いっぱいこれを用意しましたよではなくて、皆さん、こういう問題に対しては、この科目とこの科目とこの科目というのは一つのグループですよなどという形でまとめてくれると、もっとわかりやすいような感じもするのですけれど、それはまとまっているのでしょうか。

宇都宮指導室統括指導主事　まとまっていないですね。

細野委員　それをそういうふうにすると、少し研修を受けられる先生方も、選択するときにはちょっとは楽できるかもしれない。

それを少しお願いしたいと思います。

水崎委員　私は、今、教育長のおっしゃったことは、本当にそのとおりに思っています。

今、ここで学力向上がテーマだったので勉強のことで私も言ってしまいましたけれども、本当に今、大人も子どもも人間力を高める、人間としての生き方というものを、中身を育てるというのですか、育つというのですか、大事だなと思います。だから私は、教育長の今の発言に、すごく同感です。ありがたいなと思いました。

小田原委員長　そのほかいかがですか。

細野委員　僕、確かにそうだと思うのですよ。こんな、もう論争になってしまうからあれですけども、こういう世の中になっていますから、ある程度の知識がないと、要するに耐久力というか、それは多分できないと思いますよ。

何で勉強って書くんだらうか。やりたくないこともやる、我慢してやる。本当はテレビを見たいけれども我慢して、これは宿題やりましょうと、そういう精神的な力って、どういところから出てくるのだらうか。僕、そこも大きいと思うのですよ。

あるいは、そういうのはいつまでもずっと上ではなくて、落ちこちたりするわけですよ。それはどういう形でこれを克服するのかとか、あるいは落ちこちたときにも、自分で落ちこちたなとわかると、そうすると挫折もあると。そういう挫折が、ひょっとすると寛容力とか、人に対して同感するとか共感するというのも、私はないとは思わない。

だから、勉強というものと人間力というものは、そんなに切り離せるのかなというような気もしますけれどもね。

水崎委員　一度、こういう話し合いを、どこかでまたさせていただければうれしいなと思います。

小田原委員長 いや、まあ、どこかではなくて、ここでやっていいですよ。

水崎委員 今は、テーマが学力向上なので。

小田原委員長 いや、だから、それはそれでいいですよ。

水崎委員 人間教育のそういう話を余りすると、もうそういうのになってしまうので、私はこれで結構です。

小田原委員長 これは、言われているから言いますと、学校に朝行って、どうするのかということを考えて、何時、3時に下校する。その間、何をやっているのか。授業をやっているのですよね。その授業というのは何かと言ったら、各教科の授業をやっているわけです。そのこのところのとらえ方で、それを教える教員は、ただ教科の力があるだけではなくて、特に小学校は全科という形で免許証を与えているのは何なのだとしたことなのですよ。

国語の教員として免許を与えているわけではない。全科というのは国語を通じて人格形成をやっていく小学校のポイントがあるわけですよ。だけど、国語の授業をやっているわけですよ。そういうことを考えて、どこを考えるかという点で、ちょっと力点の置き方がいろいろな発言になっているのだらうと思いますけれども。

それは、じゃあ、学校で何をやるのかということ考えたときに、細野さんは授業の方を中心に考える、授業を教える側のお立場の教員をどうするかという点で教育長のような発言があるということで、そんなに大きな違いはないのだけれども、そこら辺は、きょうはサミットの期間中もあって、明るいうちに電気を消さなきゃいけないと、つけちゃいけないという話がありますので、別にこの話題は、夜中を徹して姫木平でやるようなことも考えていただいて。

今の指導室の2件の御報告について絞って、ほかに御発言があったらどうぞ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 よろしいですか。では、指導室の報告は以上ということで。

小田原委員長 続いて、生涯学習総務課から、御報告願います。

桑原生涯学習総務課長 それでは、平成20年度の生涯学習スポーツ部の夏季事業について、御報告します。

生涯学習総務課で5事業を初め、3課2館で、ことしは72事業を計画しております。お手元の資料のうち、網かけしている部分については、このように新規部分になっており

ます。それでは、細かい概要につきましては、齋藤主査の方から御説明いたします。

齋藤生涯学習総務課主査　それでは、まず初めに1ページをごらんください。生涯学習総務課でございます。

新規事業であります、伝統文化こども教室合同発表会を初め、5事業を実施いたします。

次に同じく1ページ、スポーツ振興課でございます。学校プール解放事業を初め、4事業の実施をいたします。学校プール解放事業につきましては、地域性等にも配慮をさせていただいて、昨年度の9校から13校に拡大をいたしております。

次に2ページから4ページまで、学習支援課でございます。映画会や講座など23事業を実施いたします。

続きまして4ページ、文化財課は、体験学習など4事業を実施いたします。

次に5ページから6ページ、図書館です。中学生ボランティア体験や図書館探検隊、おはなし会など10事業を実施いたします。

最後に7ページから9ページまで、こども科学館です。新規事業でございます、こどもデジカメ教室や天気予報入門を初めといたしまして、26事業を実施いたします。

これらにつきましては、この後、市内の小・中学校等にも積極的に情報を提供していきたいと考えております。以上でございます。

小田原委員長　生涯学習総務課からの報告は終わりました。本件について、何か御質疑、御意見ございましたらどうぞ。

水崎委員　今、お話にあったように、学校プール解放なのですけれども、去年この場で話し合っていたのを受けてくださって、増やしてくださったと。たしか、去年9校だったと思うのですけれども、それが今年13校で4校ふえたと思うのですね。旧市内にぜひというお声もあったと思うのですけれども、そこら辺はいろいろ事情もあると思うのですけれども、去年の話を実行に移していただきましてありがとうございました。

それともう一つ、今、小・中学校にも案内をと言われたのですけれども、それはどんな形で案内って出されるのですか。

齋藤生涯学習総務課主査　こちらの定例会に報告をさせていただいて、御了承をいただきましたら、学校の方には電子データ等で提供させていただいて、各個別の事業については、またチラシをつくったり広報掲載をしたりいたしますので、学校の方で使えるように一覧表という形でも学校の方にもメール等で、こちらの形を学校用に多少、ここに定例会報告

事項と入っておりますので、学校用に修正をしまして、電子データ等で夏季にこれだけの事業がありますという情報提供をします。

また個別にはチラシ等で。

水崎委員 その件なのですけれど、広報はちおうじにも毎年載りますよね。あの広報はちおうじのレイアウトというのは、あれは皆さん、こちらで考えるのですか。それとも、載せ方についてはどこかにお任せなのですか。

毎年、ちょっと見ると、幾らか違うかなと思うのですね。表で出ているのって、すごく見やすいのですよね。もちろん個人的な感想なのですけれど。文章でずらずらと書かれているのは、ちょっと見にくいかなと思って。

私なんかは、これはすごく見やすいですよ。だから、せっかくこれだけのものを用意されているので、PRの方法でいっぱい来てくれればうれしいなと。せっかくの夏休みを、子どもたちにも保護者にも有意義に過ごしてもらえればなと思うので、それをちょっと聞いてみたかったですけれど。

桑原生涯学習総務課長 広報は広報所管、総合政策室の中に広報所管がありまして、割り振りですとかそういうものはそこが一応決めるのですね。それと、その時期によって、毎月1日と15日に出来ますから、その時期にこれを全部一遍に載せるということではなくて、タイムリーな時期に載せることを考えておりますので、こういう形ではなかなか全部一度にということは無理かなということになってございます。

水崎委員 同じ内容でも、表になって出た年と、ずらずらと文章になって出た年とがあるのですよ。それもやっぱり向こうにお任せしているのですか。

桑原生涯学習総務課長 基本的には、今言った広報担当所管にお任せをするのですが、そういう要望があれば、こちらからも要望するというのもございます。

水崎委員 何を、だれを対象に、どこでやるか。何をやるかというのが先に出ると、結構ぱっと目を引くんですね。私も実際、自分の子どもを育てていて、あれを見て結構行ったというのがあるのですよね。だから、紙面の工夫で幾らか参加者がふえてくれればうれしいなと、そんな思いでちょっと話させてもらったのですけれど。

小田原委員長 これは何、広報に一挙に載るわけ。分割して載せるの。

桑原生涯学習総務課長 この時期等によりまして、例えば8月の終わりのものを7月に載せてもなかなかあれなので、やっぱりタイムリーな時期をねらって載せますので、いろいろ分割して載るようになります。

小田原委員長 見やすいのがこれに載るのが、よくわかりませんが、縦書きの方が読みやすいという人もいれば、表の方が見やすいという人もいるでしょうから、そこは編集の技量でしょうから、それは任すしかないと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

新規事業は網かけだけど、なくなったというのはあるのですか。もったいなかったというの。そういうのはないのでしょうか。

桑原生涯学習総務課長 これは、私どもの課の事業ですけれども、去年、例の友好都市との関係で、去年は韓国の始興との交流事業をやったのですが、今年は向こうから来る予定なのですが、これがちょっと向こうの御都合ではっきりしないところがございます。そういうものですか、例えばそういうものは一つ、今年なくなっております。

そのために、もう一つ、伝統文化こども教室、これが今度新しく。

小田原委員長 だから、新しいのはわかる。なくなったものがどれですかという。

桑原生涯学習総務課長 私どもの課では、そういうものがなくなって。

小田原委員長 私どもだけじゃなくて。

森生涯学習スポーツ部主幹 なくなったものというのは、実は評価が余りかんばしくなかったとか、受け皿、対応がよくなかったとか、実は先生が見つからなかったり、去年より忙しくなっちゃったから、ことしはだめだというような理由もあります。いろいろパターンがありまして、そういう中でやむを得ず中止にする場合と、継続しているもので学習に大変効果があるというものは、自分たちの中で検討しながら加えたり減らしたり、そういう形ではしております。

小田原委員長 どういうことかというのと、効率の問題だけで消えていくのか、そうではなくて人数が少なくても残したいというものが、引き継いでいける形になっているのかどうかと、そういうことなのですよ。

森生涯学習スポーツ部主幹 現在の学校では、そういうものもありますし、それからやはりやってほしいのだけど、人材確保ができなくてできないというものもありますし、課の中で、できるものについては、引き継いでやると、そういう形で……。

小田原委員長 と、すれば、これはこういうところに出すべきではありませんかということなのですよ。そういう、それも宣伝の一つなのだから、なくしてはいけないものを、うやむやのうちに消しちゃうというのはまずいのではないのか。もし、そういう必要性があって、なおかつ応募者が少ない、もったいないというのは何なのかということを出して、

今回はないけれども、次回また考えなきゃいけないのではないかなという形での掲示の仕方というのは必要ではないか。そういうことなのですよ。

それは、今日はもう間に合いませんので、御検討ください。

菊谷生涯学習スポーツ部長 子ども科学館長の方と、今、生涯学習総務課長の方から御報告がございましたが、その他の所管につきましては、プラスしたもので、減になったものはございません。

小田原委員長 はい。そのほか、いかがでしょうか。

どうぞ。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 特にないようでございますので、生涯学習スポーツ課からの報告は以上ということで。

もう一つ、教育総務課から1件、ございますか。

これは何だっけ、予定外のことだっけ。

天野教育総務課長 そうです。口頭だけの。

小田原委員長 学校教育部長に聞かなきゃいけなかったんだ。

何かございますか。

石垣学校教育部長 教育総務課の方から1件ございますので、よろしく願いいたします。

天野教育総務課長 口頭で御報告させていただきます。

市の取り組みなのですけれども、夏休み子どもを取り巻く事故犯罪ゼロ作戦ということ、全庁を挙げて取り組むというものでございます。

これは、夏休みに入りますと、子どもが巻き込まれる事件等が多くなるというところがありまして、巻き込まれないような対策を講じるということ、これを夏休み子どもを取り巻く事故犯罪ゼロ作戦として、今年度実施するものでございます。

具体的には、各所管の方で、いろいろと子どもたちの事故、それからヒヤリとするような事例があります。これについて取りまとめ、具体的にどう対策をするのかということ、報告シートにまとめまして、全庁でこの情報の共有化を図っていくと。そして、それを参考に、各所管の方でも、子どもたちを夏休みの事故・犯罪から未然に防ぐような対策を考えていくと。各所管の方で実施していくというようなものです。

この報告シートにつきましては、現在、政策審議室の方で最終的に取りまとめをしているという状況でございます。こういった取り組みをしているという分につきましては、7

月15日号の広報でお知らせしていくというような考え方です。

内容については以上です。

小田原委員長 教育総務課からの報告は終わりました。

本件について、何か御質疑、御意見ございますか。よろしいですか。

15日に広報で出るということなのですが、その広報に出るのは、今申し上げた、お話があったような、そういう中身。中身がないのだけどね、実際には。

天野教育総務課長 中身は、声かけ・見守りを大切にしてほしいという市民の、それが中心なのですが、その前段としてこういった対策をして、報告シート等で具体的に各所管の方で、こういう子どもたちの安全の見守りについてやっていくというようなことでの広報内容です。

小田原委員長 各所管という形。具体的にどう。

天野教育総務課長 具体的に言いますと、我々の方もありますし、それからあと公園課、それからあと子どもにかかわることも家庭部、そういったところの所管でございます。全部で19のシートになるというような予定ということで進めているところです。

石川教育長 教育からは、何件かその報告シートに載せる事項が入っているのですが、すべて交通事故です。

小田原委員長 昔、水の事故もあったのだよな。

石川教育長 そうなのは、よその事例としてプールの事故等が多いので、それにも注意をしていただきたいと、そういう内容です。

小田原委員長 では、特にないようでございますが、よろしいですか。

森生涯学習スポーツ部主幹 ちょっと、その中で一つ、子ども科学館については、今、犯罪防止というか事故に遭わないためにということで、これを八王子で「いかのおすし」というのを出しているのですね。知らない人についていけないとか、知らない人の車に乗らないというようなことがチラシとしてあるので周知いたします。

これを、プラネタリウムの投影をする前に5分間、見ている方にこれをスライドでお見せするという形になります。

小田原委員長 これは、ここに映っているわけですか、ずっと。

森生涯学習スポーツ部主幹 先般、見ていただいたとおり、始まる前に見ていただいて、必ず絵が映っていると、皆さん見ます。ですので、ポスターよりも効果があるということで、こちらで投影するというので、これを急遽、知っていただくということが、大きな

私どもとしては取り組みです。

小田原委員長 館長の優しい声で、またその声を流したらどう。見るだけじゃなく。

森生涯学習スポーツ部主幹 夏休み期間だけです。

小田原委員長 わかりました。夏休みはこれでやっていただければうれしいのですが。

ということで、夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪がゼロでありますように、また願っております。

続きまして、ほかに何か御報告すること、ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 特にないようでございますので、それではここで暫時休憩にいたします。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退出願います。

再開は15分ということで、よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 では、よろしく願いいたします。

【午後3時08分閉会】